

アンケート調査の結果

(1) 調査の概要

- ・ 調査地域 : 川西町全域
- ・ 調査期間 : 令和5年1月～2月
- ・ 調査方法 : 郵送による配布・回収

調査名	対象	配布数	回収数	回収率
日常生活圏域ニーズ調査	一般高齢者	3,000件	2,165件	72.2%
在宅介護実態調査	在宅の 要介護認定者	600件	313件	52.2%

(2) 調査結果の概要

①リスク判定結果等

日常生活圏域ニーズ調査の結果をもとに、要介護・要支援のリスクがある方を推計しています。

【参考資料】評価分析票

■運動器の機能低下の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問8	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「できない」▶1点
問9	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	
問10	15分位続けて歩いていますか	
問11	過去1年間に転んだ経験がありますか	「何度もある」または「一度ある」▶1点
問12	転倒に対する不安は大きいですか	「とても不安である」または「やや不安である」▶1点

※3点以上：該当 0点以上2点以下：非該当
※判定設問に無回答があった場合は、判定できずとします。

■口腔機能の低下の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問18	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「はい」▶1点
問19	お茶や汁物等でむせることがありますか	
問20	口の渇きが気になりますか	

※2点以上：該当 0点以上1点以下：非該当
※判定設問に無回答があった場合は、判定できずとします。

■低栄養の傾向の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問17	身長・体重	BMI<18.5▶1点
問24	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「はい」▶1点

※2点：該当 0点以上1点以下：非該当

※判定設問に無回答があった場合は、判定できずとします。

■閉じこもり傾向の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問13	週に1回以上は外出していますか	「ほとんど外出しない」または「週に1回」▶1点

※1点：該当 0点：非該当
※判定設問に無回答があった場合は、判定できずとします。

■認知機能の低下の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問26	物忘れが多いと感じますか	「はい」▶1点

※1点以上：該当 0点：非該当
※判定設問に無回答があった場合は、判定できずとします。

■うつ傾向の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問58	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「はい」▶1点
問59	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	

※1点以上：該当 0点：非該当
※判定設問に無回答があった場合は、判定できずとします。

■転倒リスクの判定・評価

問番号	項目	選択肢
問11	過去1年間に転んだ経験がありますか	「何度もある」または「一度ある」▶1点

※1点：該当 0点：非該当
※判定設問に無回答があった場合は、判定できずとします。

運動機能リスク者の割合は 10.3%であり、前回調査と比較して 0.9%増加しています。閉じこもりのリスク者の割合も 21.5%となり、前回調査に比べて 6.9%増加しています。転倒リスク者と栄養改善リスク者の割合もわずかながら増加しており、それぞれ 26.6%と 1.4%となっています。

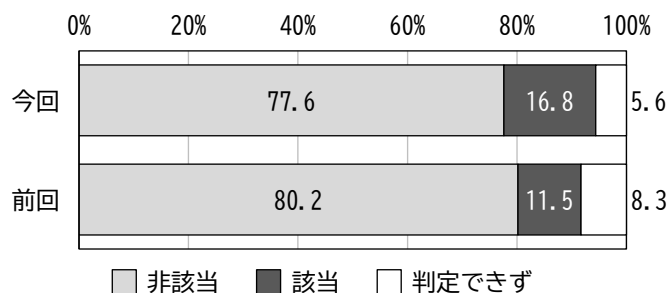
一方、口腔機能リスク者の割合は 40.0%と大幅に増加しており、前回調査と比較して 19.4%の増加を示しています。また、認知症リスク者の割合は 45.9%となり、前回調査と比較して 5.5%減少しています。さらに、うつリスク者の割合も 40.9%となり、前回調査に比べて 3.6%増加しています。

判定結果から運動機能や閉じこもりのリスク該当者が一定数いることがうかがえます。同様に、口腔機能のリスクが著しく増加していることから、口腔ケアや健診時の指導による支援の充実が重要な要素となりえます。

また、認知症リスクの割合は減少していますが、依然として多くの認知症リスク該当者がいることがうかがえます。

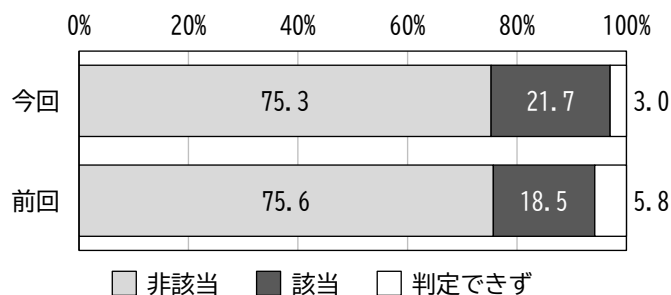
運動器の機能低下の判定・評価

運動器の機能低下のリスク者の割合については、該当者が 16.8%と、前回と比較すると 5.3%増加しています。



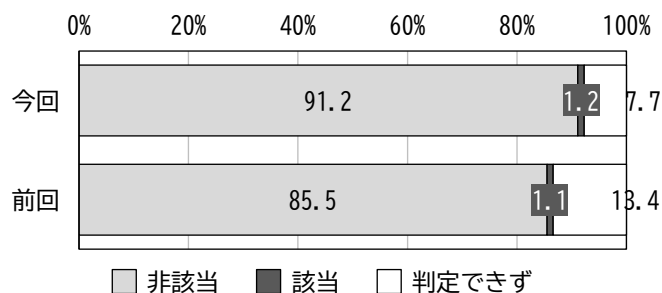
口腔機能の低下の判定・評価

口腔機能の低下のリスク者の割合については、該当者が 21.7%と、前回と比較すると 3.2%増加しています。



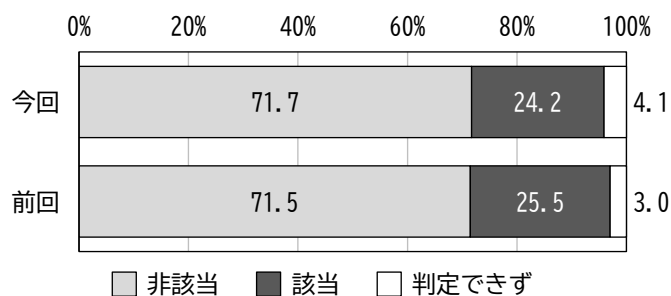
低栄養の傾向の判定・評価

低栄養の傾向のリスク者の割合については、該当者が 1.2%と、前回と比較するとほぼ同等となっています。



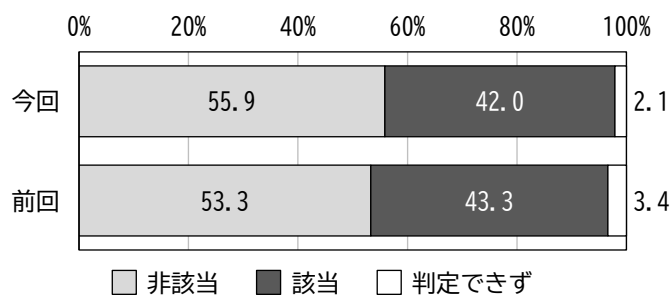
閉じこもり傾向の判定・評価

閉じこもり傾向のリスク者の割合については、該当者が24.2%と、前回と比較すると1.3%減少しています。



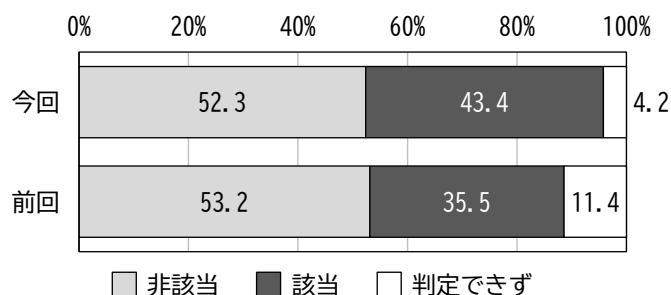
認知機能の低下の判定・評価

認知機能の低下のリスク者の割合については、該当者が42.0%と、前回と比較すると1.3%減少しています。



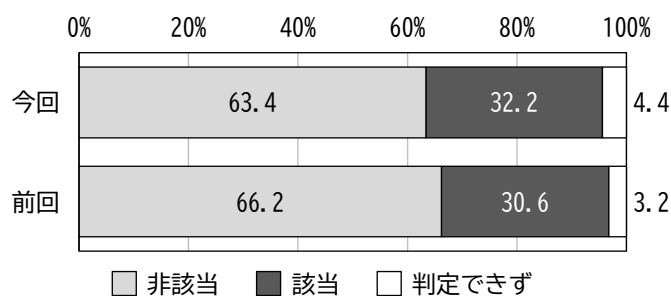
うつ傾向の判定・評価

うつ傾向のリスク者の割合については、該当者が43.4%と、前回と比較すると7.9%増加しています。



転倒の判定・評価

転倒のリスク者の割合については、該当者が32.2%と、前回と比較すると1.6%増加しています。



その他の項目の判定結果

日常生活圏域ニーズ調査の結果をもとに、虚弱、老研式活動能力指標（IADL（手段的自立度）、社会参加（知的能動性）、社会参加（社会的役割））のリスクがある方を推計しています。

老研式活動能力指標について

人が生きていくための機能全体を「生活機能」といいます。高齢者の生活機能としては、歩行や移動、食事、更衣、入浴、排泄、整容などの基本的な身体動作がよく知られています。

しかし、これだけでなく、交通機関の利用や電話の対応、買物、食事の支度、家事、洗濯、服薬管理、金銭管理などのより複雑な生活関連動作や社会的役割を担う能力などさまざまな水準があります。より高次の生活機能の評価を行うため、老研式活動能力指標を設定しています。

【参考資料】評価分析票

■虚弱の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問8	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「できない」▶1点
問9	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	
問10	15分位続けて歩いていますか	
問11	過去1年間に転んだ経験がありますか	「何度もある」または「一度ある」▶1点
問12	転倒に対する不安は大きいですか	「とても不安である」または「やや不安である」▶1点
問13	週に1回以上は外出していますか	「ほとんど外出しない」または「週に1回」▶1点
問14	昨年と比べ外出の回数は減っていますか	「とても減っている」または「減っている」▶1点
問17	身長・体重	BMI<18.5▶1点
問18	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「はい」▶1点
問19	お茶や汁物等でむせることがありますか	
問20	口の渇きが気になりますか	
問24	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	
問26	物忘れが多いと感じますか	「できない」▶1点
問27	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	
問28	きょうが何月何日かわからない時がありますか	
問29	バスや電車をを使って1人で外出していますか	「できない」▶1点
問30	自分で食品・日用品の買い物をしていますか	「いいえ」▶1点
問33	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「はい」▶1点
問38	友人の家を訪ねていますか	「いいえ」▶1点
問39	家族や友人の相談にのっていますか	

※10点以上：該当 0点以上9点以下：非該当

※判定設問に無回答があった場合は、判定できずとします。

■IADL（手段的自立度）の判定・評価・・・老研指標

問番号	項目	選択肢
問29	バスや電車をを使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	「できるし、している」▶1点 または 「できるけどしていない」▶1点
問30	自分で食品・日用品の買い物をしていますか	
問31	自分で食事の用意をしていますか	
問32	自分で請求書の支払いをしていますか	
問33	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

※5点：問題なし 4点：やや低い 0点以上3点以下：低い

※判定設問に無回答があった場合は、判定できずとします。

■社会参加（知的能動性）の判定・評価・・・老研指標

問番号	項目	選択肢
問34	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「はい」▶1点
問35	新聞を読んでいますか	
問36	本や雑誌を読んでいますか	
問37	健康についての記事や番組に関心がありますか	

※4点：問題なし 3点：やや低い 0点以上2点以下：低い

※判定設問に無回答があった場合は、判定できずとします。

■社会参加（社会的役割）の判定・評価・・・老研指標

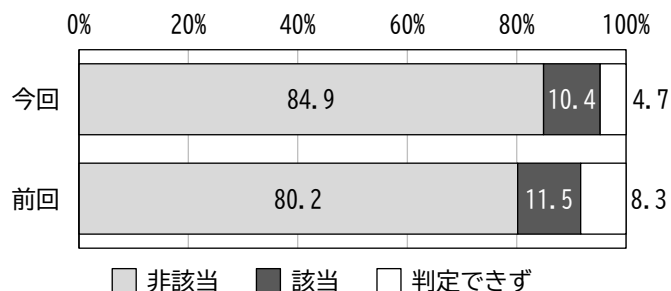
問番号	項目	選択肢
問38	友人の家を訪ねていますか	「はい」▶1点
問39	家族や友人の相談にのっていますか	
問40	病人を見舞うことができますか	
問41	若い人に自分から話しかけることがありますか	

※4点：問題なし 3点：やや低い 0点以上2点以下：低い

※判定設問に無回答があった場合は、判定できずとします。

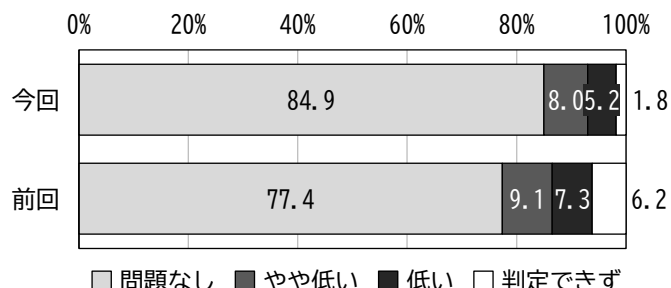
虚弱の判定・評価

虚弱の割合については、該当者が10.4%と、前回と比較すると1.1%減少しています。



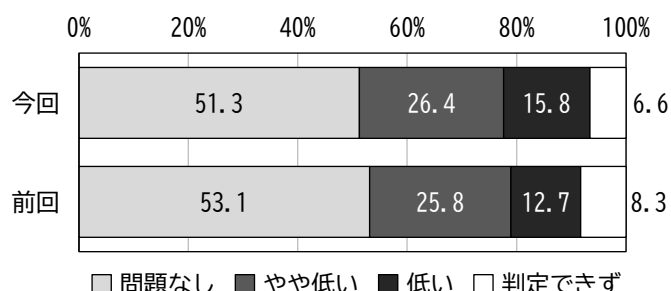
IADL（手段的自立度）の判定・評価

IADL（手段的自立度）については、「やや低い」「低い」を合わせた割合が13.2%と、前回と比較すると3.2%減少しています。



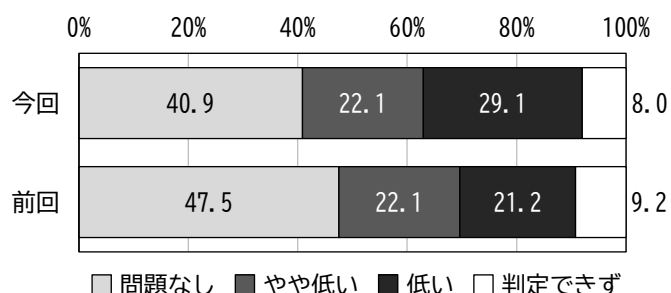
社会参加（知的能動性）の判定・評価

社会参加（知的能動性）については、「やや低い」「低い」を合わせた割合が42.2%と、前回と比較すると3.7%増加しています。



社会参加（社会的役割）の判定・評価

社会参加（社会的役割）については、「やや低い」「低い」を合わせた割合が51.2%と、前回と比較すると7.9%増加しています。



まとめ

運運動器・口腔機能・うつ傾向・転倒のリスク該当者が増加しているほか、社会参加（知的能動性）、社会参加（社会的役割）の低い人の割合が増加しており、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により外出機会や地域とのつながりの機会の減少などの影響がうかがえます。

また、認知症リスクの割合は減少していますが、依然として多くの認知症リスク該当者がいることがうかがえます。

②地域での活動について

地域の活動に「参加している」割合について

「⑧収入のある仕事」を除いて「参加している」の割合が前回調査よりも低くなっており、特に「⑥老人クラブ」「⑦町内会・自治会」で減少しています。

項目	今回	前回	差
①ボランティアのグループ	12.5%	15.4%	-2.9%
②スポーツ関係のグループやクラブ	15.5%	17.7%	-2.2%
③趣味関係のグループ	17.9%	21.0%	-3.1%
④学習・教養サークル	4.4%	7.7%	-3.3%
⑤介護予防のための通いの場	10.6%	12.9%	-2.3%
⑥老人クラブ	10.7%	17.8%	-7.1%
⑦町内会・自治会	30.2%	36.4%	-6.2%
⑧収入のある仕事	25.5%	25.2%	+0.3%

地域づくりに「参加者」として参加してみたいか

「参加している、参加の意向がある」割合は58.1%で、前回と同等となっています。

一方で、特に、「参加したくない」が36.5%で前回より増加しています。

項目	今回	前回	差
「是非参加したい」	7.1%	8.6%	-1.5%
「参加してもよい」	46.1%	42.8%	+3.3%
「既に参加している」	4.9%	6.7%	-1.8%
上記合計 「参加している、参加の意向がある」	58.1%	58.1%	0.0%
「参加したくない」	36.5%	31.0%	+5.5%

地域づくりに「企画・運営（お世話役）」として参加してみたいか

「参加している、参加の意向がある」割合は34.8%で、前回と比較すると1.7%減少しています。

項目	今回	前回	差
「是非参加したい」	3.3%	3.4%	-0.1%
「参加してもよい」	28.6%	30.6%	-2.0%
「既に参加している」	2.9%	3.9%	-1.0%
上記合計 「参加している、参加の意向がある」	34.8%	37.9%	-3.1%
「参加したくない」	51.8%	50.1%	+1.7%

まとめ

社会活動への参加意欲が減少傾向にあることがうかがえます。社会活動には高齢者が地域とつながる機会の確保や、高齢者の孤立を防ぐ機能もあることから、無理のない形で高齢者が意欲的に社会活動ができる情報発信等を進めていくことが考えられます。

③たすけあいについて

心配事や愚痴を聞いてくれる人、聞いてあげる人、看病や世話をしてくれる人、してあげる人の「そのような人はいない」の割合について

すべての項目で「そのような人はいない」の割合が増加しています。

特に、「⑤家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手」では、29.6%で、前回と比較すると5.6%増加しています。

項目	今回	前回	差
①心配事や愚痴を聞いてくれる人	5.0%	3.9%	+1.1%
②心配事や愚痴を聞いてあげる人	7.2%	5.9%	+1.3%
③看病や世話をしてくれる人	6.4%	3.7%	+2.7%
④看病や世話をしてあげる人	13.6%	11.7%	+1.9%
⑤家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手	29.6%	24.0%	+5.6%

まとめ

地域のつながりの希薄化と、家族以外の交流機会等が少なくなっていることがうかがえます。

引き続き地域でのたすけあいの意識醸成を図っていくとともに、災害時や緊急時の対応の遅れを防ぐため、若年層・中年層も含めた「互助」意識の啓発や、地域における支え合いの体制づくりの推進等が考えられます。

そのほか、相談事については身近に相談できる行政窓口の周知・充実を図ることが今後考えられます。

④健康について

現在の健康状態について

『よい』と『よくない』のどちらも前回調査とおおむね同様の割合となっており、『よい』が『よくない』を上回っています。

項目	今回	前回	差
『よい』 ※「とてもよい」と「まあよい」の合計	74.7%	72.6%	+2.1%
『よくない』 ※「あまりよくない」と「よくない」の合計	19.5%	18.7%	+0.8%

現在どの程度幸せか【0点（とても不幸）～10点（とても幸せ）のうち点数を回答】

平均点は前回調査時とおおむね同様となっています。

項目	今回	前回	差
平均点	6.3点	6.1点	+0.1点

この1か月間（回答時点）で気持ちが沈んだり、無気力を感じるがあったか

いずれの項目も前回調査から5%以上増加しています。

項目	今回	前回	差
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあった	38.8%	33.0%	+5.8%
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあった	28.8%	23.0%	+5.8%

まとめ

健康であることやうつ傾向がないことがあることが幸福感につながります。これらのことから、地域での健康づくりの活動への参加を促し、積極的に他者と関わるしくみづくりや支援等が今後考えられます。

また、気分が気持ちが沈んだり、無気力を感じるがあった方が増加していることから、介護予防や閉じこもり防止、うつの予防の支援の在り方等が重要な要素となりえます。

⑤在宅介護について

施設等への入所・入居の検討状況について

「入所・入居は検討していない」が55.0%で最も高く、前回と同等となっています。

項目	今回	前回	差
入所・入居は検討していない	55.0%	54.8%	+0.2%
入所・入居を検討している	17.3%	21.1%	-3.8%
すでに入所・入居申し込みをしている	22.0%	18.4%	+3.6%

今後の在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービスについて（上位3つ）

移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が17.6%で最も高くなっており、次いで「見守り、声かけ」が15.3%で、前回から3.5%増加しています。

項目	今回	前回	差
移送サービス (介護・福祉タクシーなど)	17.6%	17.8%	-0.2%
見守り、声掛け	15.3%	11.8%	+3.5%
外出同行（通院、買い物など）	10.2%	8.5%	+1.7%

現在の訪問診療の利用について

「利用している」が9.3%で、前回と同等となっています。

項目	今回	前回	差
利用している	9.3%	8.8%	+0.5%

介護者の離職・転職実態

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」は59.4%で「主な介護者及び親族・家族が仕事を辞めた」「主な介護者及び親族・家族が転職した」の合計を上回っているほか、前回調査から2.5%増加しています。

項目	今回	前回	差
介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	59.4%	56.9%	+2.5%
主な介護者及び親族・家族が仕事を辞めた	12.7%	17.7%	-5.0%
主な介護者及び親族・家族が転職した	4.0%	3.8%	+0.2%

仕事と介護の両立に効果がある支援について（上位3つ）

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が30.1%で最も高く、前回と比較して5.4%増加しています。

次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が25.3%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が24.1%となっています。

項目	今回	前回	差
介護休業・介護休暇などの制度の充実	30.1%	24.7%	+5.4%
制度を利用しやすい職場づくり	25.3%	24.7%	+0.6%
介護をしている従業員への経済的な支援	24.1%	18.3%	+5.8%

主な介護者が行っている介護（上位5つ）

「食事の準備（調理等）」が74.1%で最も高く前回と比較して4.2%増加しています。

次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が73.6%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が65.5%となっています。

項目	今回	前回	差
食事の準備（調理等）	74.1%	69.9%	+4.2%
その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	73.6%	71.8%	+1.8%
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	65.5%	65.6%	-0.1%
外出の付き添い、送迎等	61.9%	61.7%	+0.2%
服薬	60.9%	57.9%	+3.0%

不安を感じる介護について（上位5つ）

「認知症状への対応」が33.0%と最も高く、次いで「夜間の排泄」が32.5%、「日中の排泄」が25.4%となっています。

特に「夜間の排泄」と「入浴・洗身」が前回と比較して増加します。

項目	今回	前回	差
認知症状への対応	33.0%	36.8%	-3.8%
夜間の排泄	32.5%	21.1%	+11.4%
日中の排泄	25.4%	26.8%	-1.4%
入浴・洗身	24.4%	16.7%	+7.7%
外出の付き添い、送迎等	21.3%	24.9%	-3.6%

まとめ

施設入所の検討については、検討・申し込みをしている方への支援を進めていくとともに、介護を受けながら自宅で過ごすことを希望している方に向けては、訪問系サービスや在宅支援サービス等の他サービスに関するニーズを把握し、適切な提供体制を整えていくことが今後考えられます。

また、介護者の状況については、1割以上が離職・転職をしています。さらに仕事と介護の両立について、介護のための休業や休暇の充実、制度を利用しやすい職場環境が高くなっており、働き方が調整できるよう引き続き事業所へ制度に関する周知・啓発を進めていくことが今後考えられます。

そのほか、介護者が不安を感じる介護について、認知症への対応、外出支援が高くなっており、高齢者やその家族、地域の関係者に向けた認知症のリスク要因や予防方法の周知・啓発を進めていくとともに、日常生活で利用できるサービスの整備が重要な要素となりえます。